

# 新規モデル施設の概要

## 令和3年6月モデル施設応募時の施設概要 2期生

|                            |   |
|----------------------------|---|
| 施設名                        | <b>筑豊地域</b> 社会福祉法人 ひまわり会<br>特別養護老人ホーム ひまわり園   |
| 入所定員                       | 定員100名 +ショートステイ19床  |
| 平均要介護度 (12月末)              | 3.8   |
| 介護職員数 (12月末)               | 30名 内訳 男性8名、女性22名 平均年齢44.1歳<br>介護職員以外の職員数 24名 (看護職1名 リハ職1名 事務職6名 その他11名)  |
| 取り組み開始時期                   | 本事業のスタートから  |
| 開始当初の福祉用具環境                | ベッド：105台 (うち電動ベッド105台、手動ベッド0台)<br>車いす合計102台：標準型車いす (41台)、跳ね上げ式車いす (33台)、<br>リクライニング車いす (19台)、 ティルト・リクライニング車いす (9台)<br>スライディングシート：3枚<br>スライディングボード：7枚 フレックスボード含む<br>スライディンググローブ：5組<br>リフト：3台 スタンディングリフト：なし |
| 開始当初の職場環境                  | 以前から、スライディングボードや電動ベッドはあったが適切に使用できていなかった。不良姿勢 (腰を曲げる・ねじる) でケアをする職員が多く腰痛者の職員が多数いた。  |
| 腰痛者の割合5月/12月<br>常に痛い・時々痛い人 | 63%⇒62% (令和3年12月末 常に腰痛あり24% 日常業務の中でほとんどが持ち上げや抱え上げ介護を行っている66%)   |

今年度から参加された施設ですが、委員会の統括リーダーである施設長が全ての研修に参加された施設です。ノーリフティングケアを定着していくうえでは、TOP管理者の理解、そしてオフィシャルな取り組みとして職員を巻き込む姿勢が組織マネジメントにおいて最も重要です。そしてそれは強みになります。当初は向く方向が違って、この1年間を通して施設全体が同じ方向を向き、取り組んでこられました。  
(地域担当講師 安武より)



|                            |             |   |
|----------------------------|-------------|---|
| 施設名                        | <b>筑豊地域</b> | 社会福祉法人 佐与福社会<br>地域密着型 特別養護老人ホーム ことぶきの森  |
| 入所定員                       |             | 定員29名 +ショートステイ10床   |
| 平均要介護度 (12月末)              |             | 4.0   |
| 介護職員数 (12月末)               |             | 22名 男性6名、女性16名 平均年齢43歳<br>介護職員以外の職員数 12名 (看護職4名 リハ職0名 事務職2名 その他6名)  |
| 取り組み開始時期                   |             | 本事業のスタートから  |
| 開始当初の福祉用具環境                |             | ベッド: 40台 (うち電動ベッド40台, 手動ベッド0台)<br>車いす: 合計30台 標準型車いす (11台), 跳ね上げ式車いす (1台),<br>リクライニング車いす (5台), ティルト・リクライニング車いす (5台)<br>スライディングシート: 2枚<br>スライディングボード: 1枚<br>スライディンググローブ: 8組<br>リフト: 1台 スタンディングリフト: 0台 |
| 開始当初の職場環境                  |             | 働いている職員に腰痛者が多く、また、福祉用具も床走行リフト1台と、その他の福祉用具が少しあり、それを上手に活用していなかった。リフトも特定の利用者にしかなら使用しておらず、抱え上げ介助が現状でした。   |
| 腰痛者の割合5月/12月<br>常に痛い・時々痛い人 |             | 93%⇒79% (令和3年12月末 常に腰痛あり31% 日常業務の中でほとんどが持ち上げや抱え上げ介護を行っている24%)   |

研修参加時、腰痛保持者が職員の8割を超えていた施設です。リフトは1台あるが、決められた対象者1名に使用、また、その他の抱え上げ介助は男性が主に行っているといった抱え上げが当たり前になっていた状況でした。そういった状況を打破するために1年間を通して委員会メンバーが中心となって職員の意識改革に尽力されてこられ、腰痛保持者の改善するといった結果を出すことに成功しています。

(地域担当講師 安武より)



|                            |             |   |
|----------------------------|-------------|---|
| 施設名                        | <b>筑豊地域</b> | 社会福祉法人 樺会<br>特別養護老人ホーム くぬぎ苑   |
| 入所定員                       |             | 定員70名 +ショートステイ20床   |
| 平均要介護度 (12月末)              |             | 3.6   |
| 介護職員数 (12月末)               |             | 54名 男性14名、女性40名 平均年齢39.5歳<br>介護職員以外の職員数 25名 (看護職9名 リハ職4名 事務職3名 その他9名)   |
| 取り組み開始時期                   |             | 2017年4月から～ (4年目)  |
| 開始当初の福祉用具環境<br>2017年当時     |             | ベッド: 90台 (うち電動ベッド90台, 手動ベッド0台)<br>車いす: 合計33台 標準型車いす (15台), 跳ね上げ式車いす (10台),<br>リクライニング車いす (0台), ティルト・リクライニング車いす (8台)<br>スライディングシート: 11枚<br>スライディングボード: 10枚<br>スライディンググローブ: 11組<br>リフト: 9台 スタンディングリフト: 9台 |
| 開始当初の職場環境                  |             | 2017年取組当初は、施設長自らが福祉用具プランナーの資格を取得し、それを機にノーリフティングケアへの取り組みをスタートした。当初は基本技術ありきで進めていたので、まずは技術伝達、次にテストという流れで全職員に課題を与えていくという流れで取り組んでいました。   |
| 腰痛者の割合5月/12月<br>常に痛い・時々痛い人 |             | 62%⇒50% (令和3年12月末 常に腰痛あり7% 日常業務の中でほとんどが持ち上げや抱え上げ介護を行っている7%)   |

施設の福祉用具の充足率としては比較的高く、教育体制も敷かれていた施設ですが、ノーリフティングの取り組みで最も重要となるリスクマネジメントについて職員の意識が統一されていませんでした。得られた課題として、職員一人一人の持つマインドを意識して向き合えていなかったという課題が見えてきました。福祉用具・委員会の取り組みが構築されていても、取り組む職員の目的の共有は必須です。今までの活動体制を見直し、ICTを駆使しながら、わかりやすく、全職員が同じ方向を向けるような配慮する取り組みがなされています。

(地域担当講師 安武より)



|                            |      |  |
|----------------------------|------|--|
| 施設名                        | 筑後地域 | 社会福祉法人 弘恵会<br>介護老人保健施設 アルテンハイムヨコクラ   |
| 入所定員                       |      | 定員95名 +ショートステイ5床   |
| 平均要介護度（12月末）               |      | 3.0  |
| 介護職員数（12月末）                |      | 25名 男性8名、女性17名 平均年齢38.4歳<br>介護職員以外の職員数 20名（看護職9名 リハ職3名 事務職4名 その他4名）  |
| 取り組み開始時期                   |      | 本事業のスタートから   |
| 開始当初の福祉用具環境                |      | ベッド：106台（うち電動ベッ86台、手動ベッド20台）<br>車いす：合計68台 標準型車いす（45台）、跳ね上げ式車いす（8台）、<br>リクライニング車いす（15台）、ティルト・リクライニング車いす（0台）<br>スライディングシート：17枚<br>スライディングボード：1枚<br>スライディンググローブ：11組<br>リフト：0台 スタンディングリフト：0台 |
| 開始当初の職場環境                  |      | コロナ禍で事業全般に制限・自粛の状況で職員全体の活気定価、意思方向性の不統一化が見受けられた。また、介護職不足ということもあり、「なんで、この時期に！？（ノーリフティングケア）」の意見も聞かれた。   |
| 腰痛者の割合5月／12月<br>常に痛い・時々痛い人 |      | 70%⇒46%（令和3年12月末 常に腰痛あり17% 日常業務の中でほとんどが持ち上げや抱え上げ介護を行っている58%）   |

人員が少ない状況下、「福岡県の事業に参加して」と不満を持つ職員がいる環境での事業開始でした。初めは、職員にやらされ感がありましたが、基本の「身体の使い方」を毎日学習し、12月の研修会で、日頃、学習していることと介護技術がつながり、職場の雰囲気の変化しました。統一ケアにより、在宅復帰できた事例も経験しました。  
(地域担当講師 山形より)



|                            |      |  |
|----------------------------|------|--|
| 施設名                        | 筑後地域 | 社会福祉法人 光輪会<br>特別養護老人ホーム 常照苑サンシャイン  |
| 入所定員                       |      | 定員40名  |
| 平均要介護度（12月末）               |      | 3.8  |
| 介護職員数（12月末）                |      | 18名 男性5名、女性13名 平均年齢37.8歳<br>介護職員以外の職員数 11名（看護職5名 リハ職0名 事務職4名 その他2名）  |
| 取り組み開始時期                   |      | 本事業のスタートから   |
| 開始当初の福祉用具環境                |      | ベッド：40台（うち電動ベッド40台、手動ベッド0台）<br>車いす：合計39台 標準型車いす（6台）、跳ね上げ式車いす（28台）、<br>リクライニング車いす（4台）、ティルト・リクライニング車いす（1台）<br>スライディングシート：11枚<br>スライディングボード：7枚 フレックスボード含む<br>スライディンググローブ：2組<br>リフト：0台 スタンディングリフト：0台 |
| 開始当初の職場環境                  |      | 常照苑本部からの分離移転（新設）から4年目を迎えた施設です。設備は機能性を重視した設計で2階・3階が特養で2ユニットずつとなっています。比較的若い職員が多いが、軽度だか腰痛の訴えを耳にする状況がありました。  |
| 腰痛者の割合5月／12月<br>常に痛い・時々痛い人 |      | 67%⇒44%（令和3年12月末 常に腰痛あり6% 日常業務の中でほとんどが持ち上げや抱え上げ介護を行っている17%）  |

「腰痛者ゼロ」を掲げ、施設長を責任者として委員が職員の皆さんのために取り組めた事業でした。独自の教育資料を作成し、EPA職員には施設長より丁寧に理解できるまで教え、職員が疑問に感じたらすぐに相談・指導できる体制を作りました。ヒヤリハットの取り組みを通して職員への腰痛の意識を高め腰痛者を減らすこともできました。  
(地域担当講師 山形より)



|                            |   |
|----------------------------|---|
| 施設名                        | <b>福岡地域</b> 社会福祉法人 恵徳会<br>特別養護老人ホーム なの国   |
| 入所定員                       | 定員80名 +ショートスティ20床   |
| 平均要介護度 (12月末)              | 3.57  |
| 介護職員数 (12月末)               | 44名 男性17名、女性27名 平均年齢41歳<br>介護職員以外の職員数 19名 (看護職5名 リハ職1名 事務職3名 その他10名)  |
| 取り組み開始時期                   | 本事業のスタートから  |
| 開始当初の福祉用具環境                | ベッド：100台 (うち電動ベッド100台、手動ベッド0台)<br>車いす：合計79台 標準型車いす (27台)、跳ね上げ式車いす (33台)、<br>リクライニング車いす (1台)、 ティルト・リクライニング車いす (18台)<br>スライディングシート：4枚<br>スライディングボード：6枚 フレックスボード含む<br>スライディンググローブ：0組<br>リフト：0台 スタンディングリフト：0台 |
| 開始当初の職場環境                  | 福祉用具がある事を知らない。どんな福祉用具があるかを知らない、力任せの介助、介助技術を学ぶ機会が少ない。腰痛に対する取り組みが全くなかった。  |
| 腰痛者の割合5月/12月<br>常に痛い・時々痛い人 | 70%⇒77% (令和3年12月末 常に腰痛あり23% 日常業務の中でほとんどが持ち上げや抱え上げ介護を行っている43%)   |

ノーリフティングケアに取り組むことで、福祉用具や環境、入居者の身体機能等、多くの気づきがあった施設です。スタッフ一人一人からの意見や気づきを共有できるシステムの構築など職員全体で改善へ取り組んでいます。今後の施設の明るい未来が見える施設の1つです。

(地域担当講師 白石より)



|                            |   |
|----------------------------|---|
| 施設名                        | <b>福岡地域</b> 特定非営利活動法人緩和ケア支援センターコミュニティ<br>看護小規模多機能居宅介護 三丁目の花や  |
| 入所定員                       | 定員ショート7床 現在の利用者19名 ショート利用5名   |
| 平均要介護度 (12月末)              | 3   |
| 介護職員数 (12月末)               | 13名 男性5名、女性8名 平均年齢45歳<br>介護職員以外の職員数 17名 (看護職8名 リハ職2名 事務職1名 その他6名)   |
| 取り組み開始時期                   | 2021年4月から   |
| 開始当初の福祉用具環境                | ベッド：7台 (うち電動ベッド7台、手動ベッド0台)<br>車いす：合計3台 標準型車いす (0台)、跳ね上げ式車いす (3台)、<br>リクライニング車いす (0台)、 ティルト・リクライニング車いす (0台)<br>スライディングシート：1枚<br>スライディングボード：2枚 フレックスボード含む<br>スライディンググローブ：1組<br>リフト：0台<br>スタンディングリフト0台 リフト付きシャワーキャリー |
| 開始当初の職場環境                  | 福祉用具がなく、移動移乗の際に抱え上げる介助になってしまい、腰痛もちの職員が多数いた。   |
| 腰痛者の割合5月/12月<br>常に痛い・時々痛い人 | 92%⇒65% (令和3年12月末 常に腰痛あり20% 日常業務の中でほとんどが持ち上げや抱え上げ介護を行っている10%)   |

全職員が安心して働ける環境づくりを目指し、看護小規模多機能の機能を生かしながら、利用者様には、在宅での生活を長く過ごしていただくために在宅へのノーリフティングケアを進めている施設です。今後の在宅へのノーリフティングケアの普及のモデルとなる施設です。

(地域担当講師 白石より)



|                            |             |  |
|----------------------------|-------------|--|
| 施設名                        | <b>福岡地域</b> | 社会福祉法人 百友会<br>地域密着型 特別養護老人ホーム フレンドピーチちはや   |
| 入所定員                       |             | 定員29名 +ショートスティ1床   |
| 平均要介護度 (12月末)              |             | 3.8  |
| 介護職員数 (12月末)               |             | 21名 男性8名、女性13名 平均年齢44.3歳<br>介護職員以外の職員数 9名 (看護職2名 リハ職1名 事務職4名 その他2名)  |
| 取り組み開始時期                   |             | 本事業のスタートから   |
| 開始当初の福祉用具環境                |             | ベッド: 30台 (うち電動ベッド30台, 手動ベッド0台)<br>車いす: 合計24台 標準型車いす (0台), 跳ね上げ式車いす (21台),<br>リクライニング車いす (2台), ティルト・リクライニング車いす (1台)<br>スライディングシート: 1枚<br>スライディングボード: 1枚 フレックスボード含む<br>スライディンググローブ: 0組<br>リフト: 0台 スタンディングリフト: 0台 |
| 開始当初の職場環境                  |             | そもそも、ノーリフティングケアの概念がなかったため、スライディングボードやスライディングシートの活用ができていなかった。また、統一したケアを目指していたものの、具体的な方法で手順が明確化されていなかったため、各々がバラバラのケアを行っていた。  |
| 腰痛者の割合5月/12月<br>常に痛い・時々痛い人 |             | 50%⇒63% 職員の入れ替わりで平均年齢41歳から44.3歳と変化<br>(令和3年12月末 常に腰痛あり19% 日常業務の中でほとんどが持ち上げや抱え上げ介護を行っている44%)  |

開設3年目の施設であり、ノーリフティングケアに取り組むことで、施設内の新たな体制作り重点を置いています。体制が整うことで、職員一人一人が働きやすい職場となり、ケアも統一できるなり、将来は双方にとって幸せに繋がる施設です。

(地域担当講師 白石より)



|                            |              |   |
|----------------------------|--------------|---|
| 施設名                        | <b>北九州地域</b> | 社会福祉法人 広寿会<br>特別養護老人ホーム 足原のぞみ苑  |
| 入所定員                       |              | 定員80名 +ショートスティ20床   |
| 平均要介護度 (12月末)              |              | 3.7   |
| 介護職員数 (12月末)               |              | 28名 男性12名、女性16名 平均年齢40.2歳<br>介護職員以外の職員数 16名 (看護職8名 リハ職1名 事務職3名 その他4名)   |
| 取り組み開始時期                   |              | 本事業のスタートから  |
| 開始当初の福祉用具環境                |              | ベッド: 100台 (うち電動ベッド100台, 手動ベッド0台)<br>車いす: 合計117台 標準型車いす (58台), 跳ね上げ式車いす (31台),<br>リクライニング車いす (10台), ティルト・リクライニング車いす (18台)<br>スライディングシート: 5枚<br>スライディングボード: 10枚 フレックスボード含む<br>スライディンググローブ: 5組<br>リフト: 0台 スタンディングリフト: 0台 |
| 開始当初の職場環境                  |              | 福祉用具の定位置や、車いすの種類別に残数の把握ができていなかった。   |
| 腰痛者の割合5月/12月<br>常に痛い・時々痛い人 |              | 61%⇒46% (令和3年12月末 常に腰痛あり 7% 日常業務の中でほとんどが持ち上げや抱え上げ介護を行っている61%)   |

課題をもって本事業に参加されていました。最初はなかなかうまくはまらない様子でしたが、途中から事業がスムーズに動き始めました。これはメンバーの皆さんのあきらめない思いの賜物だと感服しました。これからも一歩ずつ進んでいただくと確信しています。

(地域担当講師 櫻木より)



|                            |   |                          |
|----------------------------|---|--------------------------|
| 施設名                        | <b>北九州<br/>地域</b>   | 医療法人 博愛会<br>介護老人保健施設 博愛苑 |
| 入所定員                       | 定員100名  |                          |
| 平均要介護度（12月末）               | 2.89  |                          |
| 介護職員数（12月末）                | 27名 男性12名、女性15名 平均年齢39歳<br>介護職員以外の職員数 40名（看護職10名 リハ職8名 事務職12名 その他10名）   |                          |
| 取り組み開始時期                   | 2020年4月～（2年目）   |                          |
| 開始当初の福祉用具環境                | ベッド：100台（うち電動ベッド100台、手動ベッド0台）<br>車いす：合計73台 標準型車いす（47台）、跳ね上げ式車いす（17台）、<br>リクライニング車いす（9台）、 ティルト・リクライニング車いす（0台）<br>スライディングシート：3枚<br>スライディングボード：4枚 フレックスボード含む<br>スライディンググローブ：多数<br>リフト：1台 スタンディングリフト：0台 |                          |
| 開始当初の職場環境                  | ノーリフティングの取り組みを開始していたが、福祉用具の使用までは出来ていなかった。   |                          |
| 腰痛者の割合5月／12月<br>常に痛い・時々痛い人 | 78%⇒70%（令和3年12月末 <u>常に腰痛あり 22%</u> 日常業務の中でほとんどが持ち上げや抱え上げ介<br>護を行っている 15%）   |                          |

この事業に参加される前からノーリフティングケアに取り  
組まれていましたし、技術の指導者もおられましたので、  
計画立案はスムーズだったと思います。ただ入居者の多  
さとコロナによるフロア間の取り組みの統一が難しかった  
と思います。これからも焦らず進んでいってください。

（地域担当講師 櫻木より）



|                            |   |                                    |
|----------------------------|---|------------------------------------|
| 施設名                        | <b>北九州<br/>地域</b>   | 社会福祉法人 みやこ老人ホーム<br>特別養護老人ホーム みやこの苑 |
| 入所定員                       | 定員50名 +ショートスティ13床   |                                    |
| 平均要介護度（12月末）               | 4.4   |                                    |
| 介護職員数（12月末）                | 18名 +ショート対応職員は6名 腰痛調査に含まず。男性7名、女性11名 平均年齢36.2歳<br>介護職員以外の職員数 12名<br>（看護職5名（内、ショート担当1名） リハ職1名 事務職2名 その他4名）   |                                    |
| 取り組み開始時期                   | 本事業のスタートから  |                                    |
| 開始当初の福祉用具環境                | ベッド：65台（うち電動ベッド53台、手動ベッド12台）<br>車いす：合計64台 標準型車いす（21台）、跳ね上げ式車いす（18台）、<br>リクライニング車いす（5台）、 ティルト・リクライニング車いす（20台）<br>スライディングシート：3枚<br>スライディングボード：8枚 フレックスボード含む<br>スライディンググローブ：0組<br>リフト：0台 スタンディングリフト：0台 |                                    |
| 開始当初の職場環境                  | 電動ベッドや車いす、スライディングボード等の福祉用具は揃えつつあったが、使用方法の徹底が<br>不十分で適切に福祉用具を活用できていない人と、活用できていない人でばらつきがあった。  |                                    |
| 腰痛者の割合5月／12月<br>常に痛い・時々痛い人 | 74%⇒56%（令和3年12月末 <u>常に腰痛あり 0%</u> 日常業務の中でほとんどが持ち上げや抱え上げ介<br>護を行っている 17%）  |                                    |

何もかも初めての取り組みのようでしたが、研修では積極的に  
質問され、施設長はじめメンバー全員が積極的に取り組んで  
いただいていた。これからも今のチームワークで楽しく取り  
組んでいただければ嬉しいです。

（地域担当講師 櫻木より）



# メンター施設の概要

## 2年の取組後(令和3年12月末)の 現状調査の結果 1期生

|                                  |  |
|----------------------------------|--|
| 施設名                              | <b>筑豊地域</b><br>ベストライフケア株式会社<br>介護複合施設ひばり   |
| 入所定員                             | 通所介護(定員49名) 住宅型有料老人ホーム(43床)  |
| 平均要介護度(12月末)                     | 2.45   |
| 介護職員数(12月末)                      | 21名(男性9名、女性12名) 平均年齢 47.45歳<br>介護職員以外の職員数 9名(看護職 7名 リハ職 0名 事務職 1名 その他 1名)  |
| 取り組み開始時期                         | 令和2年8月～  |
| 開始当初の福祉用具環境<br>の変化<br>赤字は福祉用具の変化 | ベッド: 45台(電動ベッド38台⇒39台、手動ベッド7台⇒6台)<br>車いす: 標準型車いす(3台) 1台⇒、跳ね上げ式車いす(26台) ⇒28台、<br>リクライニング車いす(2台) ⇒1台、ティルト・リクライニング車いす(2台) ⇒3台<br>スライディングシート: 4枚⇒4枚<br>スライディングボード: 3枚⇒3枚<br>スライディンググローブ: 19組⇒19組<br>リフト: 1台⇒3台 スタンディングリフト: 1台⇒3台 |
| 開始当初の職場環境                        | 必要に応じて体に負担がかかる業務は改善するように努める体制ができているが、全職員の徹底は行っていない点があった。   |
| 現在の状況                            | ・福祉用具の使用は、定着してきている。特に、シート、グローブ、リフト、スタンディングリフトは、対象者を特定して、個別の使用方法の研修も行ってきたためなくてはならないものとなっている。  |
| 腰痛者の割合5月/12月<br>常に痛い・時々痛い人       | 76%⇒62%<br>(令和3年12月末 常に腰痛あり10% 日常業務の中でほとんどが持ち上げや抱え上げ介護を行っている0%)  |

当事業参加前から施設内におけるケア技術の発信には尽力されていましたが、当時はリスクマネジメントの視点を持った組織体制としては根付いていませんでした。昨年度から当事業に参加し1年で施設内でリスクマネジメントができる体制を構築し、現在ではノーリフティングケアが当たり前のケアとして定着しています。更にモデル施設の役割としてコロナ禍で難しい中、ネットワークを活かし、高齢者・障害・児童での幅広い視点で地域に向けた情報発信を続けられています。(地域担当講師 安武より)

ベストグループ周辺施設状況



|                            |  |
|----------------------------|--|
| 施設名                        | <b>筑豊地域</b> 社会福祉法人内野会<br>特別養護老人ホーム 本陣園   |
| 入所定員                       | 50名 +ショートステイ10名  |
| 平均要介護度（12月末）               | 3.88   |
| 介護職員数（12月末）                | 37名（男性9名、女性28名） 平均年齢 45.4歳<br>介護職員以外の職員数 19名（看護職 4名 リハ職1名 事務職 5名 その他 9名）   |
| 取り組み開始時期                   | 令和2年8月～  |
| 開始当初の福祉用具環境<br>赤字は福祉用具の変化  | 電動ベッド：60台 手動ベッド0台<br>車いす：標準型車いす（30台⇒8台）、跳ね上げ式車いす（10台⇒22台）、<br>リクライニング車いす（13台⇒4台）、ティルト・リクライニング車いす（8台⇒13台）<br>スライディングシート：4枚⇒6枚<br>スライディングボード：4枚⇒11枚<br>スライディンググローブ：14組⇒11組 <b>ディスポ</b><br>リフト：2台<br>スタンディングリフト：0台⇒3台 |
| 開始当初の職場環境                  | 一人での抱え上げは実施しておらず、2人介助で低減策はとれていたが、腰痛者がでている状態であった。教育体制について課題もあり、腰痛予防のための身体の使い方から周知をしていく必要があった  |
| 腰痛者の割合5月／12月<br>常に痛い・時々痛い人 | 60%⇒54%（令和3年12月末 常に腰痛あり8% 日常業務の中でほとんどが持ち上げや抱え上げ介護を行っている3%）   |

昨年は、ノーリフティングという言葉聞いたこともない職員がいたという、初めての取り組みでしたが、1年間で体制が構築され、2年目は「統一性と確実性」に尽力されてきた施設になります。報告でもある通り、1年目で残された課題をそのままにせず、改善される取り組みが見られました。実はこれが一番難しく、取り組めていない事業所も多いのではないかと思います。今後も、施設長、委員会メンバーを中心に課題の抽出から更なる改善へと進んでいくことと思います。1年前に比べて更に飛躍されました。

（地域担当講師 安武より）



|                                  |   |
|----------------------------------|---|
| 施設名                              | <b>筑後地域</b> 社会福祉法人 光輪会<br>特別養護老人ホーム 常照苑 くすのき通り  |
| 入所定員                             | 入所定員：30名  |
| 平均要介護度（12月末）                     | 3.5   |
| 介護職員数（12月末）                      | 18名 男性 6名、女性12名 平均年齢 42.8歳<br>介護職員以外の職員数 16名（看護職 5名 リハ職 1名 事務職 2名 その他 8名）   |
| 取り組み開始時期                         | 令和2年8月～   |
| 開始当初の福祉用具環境<br>の変化<br>赤字は福祉用具の変化 | ベッド：30台⇒30台（電動ベッド30台、手動ベッド0台）<br>車いす：標準型（0台）、跳ね上げ式車いす（16台）<br>リクライニング車いす（7台）、ティルト・リクライニング車いす（0台）<br>スライディングシート：16枚⇒20枚<br>スライディングボード：4枚⇒5枚<br>スライディンググローブ：0枚⇒2組<br>スタンディングリフト：0台⇒1台 リフト：0台⇒1台 |
| 開始当初の職場環境                        | ①利用者のADL状況を正しく知る。②スライディングシート・グローブなどの福祉用具正しい使用方法を理解する。③正しい移乗方法を理解、習得する。④利用者にとって、必要な福祉用具（車いすなど）を選定する。⑤不足している福祉用具および機器の購入をする。  |
| 現在の状況                            | ①再評価が出来ていない。<br>②ノーリフティングケア委員会による教育を行っている。<br>③ノーリフティングケア委員会による教育を行っている。<br>④アセスメントシートを利用して選定を行っている。<br>⑤必要に応じて福祉用具の購入を行っている。   |
| 腰痛者の割合5月／12月<br>常に痛い・時々痛い人       | 50%⇒28%（令和3年12月末 常に腰痛あり0% 日常業務の中でほとんどが持ち上げや抱え上げ介護を行っている6%）  |

昨年の福岡県事業に取り組み、腰痛の軽減は継続して実現できているとのことです。今回は、1事例を通してケアプランの見直しをPDCAサイクルを活用して、更新していく様子を詳細に記載されています。さらには、ラウンドによるリスクの芽を摘む大切さも記載されています。

（地域担当講師 山形より）





|                              |      |  |
|------------------------------|------|--|
| 施設名                          | 筑後地域 | 社会福祉法人 桜園<br>特別養護老人ホーム 桜の丘   |
| 入所定員                         |      | 入所定員：50名 +ショートステイ20床   |
| 平均要介護度（12月末）                 |      | 4.01⇒4.0   |
| 介護職員数（12月末）                  |      | 18名 男性 7名、女性 11名 平均年齢 43歳<br>介護職員以外の職員数 23名（看護職3名 リハ職 0名 事務職 4名 その他 16名）   |
| 取り組み開始時期                     |      | 令和2年8月～  |
| 開始当初の福祉用具環境の変化<br>赤字は福祉用具の変化 |      | ベッド：70台（電動ベッド35台、手動ベッド35台）<br>車いす：標準型（3台）、跳ね上げ式車いす（39台）、<br>リクライニング車いす（4台）、ティルト・リクライニング車いす（0台）<br>スライディングシート：11枚⇒27枚 スライディングボード：9枚⇒12枚<br>スライディンググローブ：2組⇒4組 スタンディングリフト：0台⇒1台 リフト：2台  |
| 開始当初の職場環境                    |      | 平成26年度より抱え上げない介護を行うために移乗介助時に電動ベッドの活用や移動用リフター、トランスファーボード、スライディングシートの活用を進めています。ベッド上での介護時や移乗時にも電動ベッドギャジアップ機能を活用し職員のケアのしやすい高さにはベッドの高さを上げたりご利用者の起こし上げを行っています。   |
| 現在の状況                        |      | ノーリフティングケア＝介護技術ではなく体の使い方、不良姿勢とならないように、また、しっかりと体重移動がケアの中で活用できるように毎日の体操の中で習慣付け、意識付けを行っている。技術だけではなく腰痛のリスクマネジメントについても気づきを挙げ安全で安心して働ける環境づくりとして工夫を行っている。福祉用具も必要なものが使いやすい配置状態となりノーリフティングケアを実践しやすい環境を整えている。ノーリフティングケアを実践する中でご利用者の変化にもみられている。（筋緊張があり座位姿勢が整わなかったご利用者が座位が整うようになり自分で食事を食べることができなくなっていた状態から自分でスプーンを持ち茶碗を持ち食事を食べようとするようになった。）ケアプランの中にノーリフティングケアが組み込まれ実践に繋がっている。PDCAサイクルが回りだしている。 |
| 腰痛者の割合5月／12月<br>常に痛い・時々痛い人   |      | 21%⇒28%（令和3年12月末 常に腰痛あり 11% 日常業務の中でほとんどが持ち上げや抱え上げ介護を行っている 0%）  |

関連施設職員にノーリフティングケアの事について全職員へ理解を求めました。また、地域の介護関連施設などにも広報活動を実施しました。自施設では、福祉用具を適切に使用することで利用者のADL機能が向上することも経験できました。  
(地域担当講師 山形より)



|                            |      |   |
|----------------------------|------|---|
| 施設名                        | 福岡地域 | 社会医療法人 福西会<br>さわら老健センター   |
| 入所定員                       |      | 入所定員：100名   |
| 平均要介護度（12月末）               |      | 2.78  |
| 介護職員数（12月末）                |      | 42名 男性15名、女性27名 平均年齢 41.34歳<br>介護職員以外の職員数 41名（看護職11名 リハ職9名 事務職4名 その他 17名）   |
| 取り組み開始時期                   |      | 令和2年8月～   |
| 開始当初の福祉用具環境の変化             |      | ベッド：100台（電動ベッド58台、手動ベッド42台）<br>車いす：標準型車いす（23台）、跳ね上げ式車いす（43台）⇒46台<br>リクライニング車いす（0台）、ティルト・リクライニング車いす（13台）<br>スライディングシート：0枚⇒6枚<br>スライディングボード：1枚⇒8枚<br>スライディンググローブ：0組⇒60組 リフト：0台⇒1台 |
| 開始当初の職場環境                  |      | 入浴支援、排泄支援、移乗支援などで中腰姿勢により腰痛の発生要因がある。<br>また、職員間の意識や技術の差がある  |
| 現在の状況                      |      | 福祉用具がある程度揃ったが排泄、入浴介助時の不良姿勢などあり課題として残っている。<br>特に入浴時の浴槽への出入り介助時の負担が大きい状況。リフト導入を検討中。<br>また技術指導についてコア・サポートメンバー以外の職員への指導、新人中途採用者への指導が遅れている。  |
| 腰痛者の割合5月／12月<br>常に痛い・時々痛い人 |      | 40%⇒74%（令和3年12月末 常に腰痛あり 21% 日常業務の中でほとんどが持ち上げや抱え上げ介護を行っている 50%）  |

法人内での3カ年計画が進んでおり、今年で2年目である。法人内や地域への勉強会等も開催されており、老人保健施設の目的の一つである在宅復帰を大切にしており、在宅復帰にノーリフティングケアを取り入れ実行しています。確実に1歩1歩前に進んでいる施設です。  
(地域担当 白石講師より)



|                                    |   |
|------------------------------------|---|
| 施設名                                | <b>福岡地域</b><br>社会福祉法人 二丈福祉会<br>・特別養護老人ホーム 仙寿苑 ・地域密着型特別養護老人ホーム はまぼう  |
| 入所定員                               | 特別養護老人ホーム 仙寿苑 (従来型) 入所定員: 50名<br>地域密着型特別養護老人ホーム はまぼう ユニット型 入所定員: 29名  |
| 平均要介護度 (12月末)                      | 仙寿苑 4.0 はまぼう 4.2  |
| 介護職員数 (12月末)                       | 37名 男性 11名、女性 26名 平均年齢 44.15歳<br>介護職員以外の職員数 33名 (看護職 5名 リハ職 2名 事務職 1名 その他 25名)  |
| 取り組み開始時期                           | 令和2年8月～   |
| 開始当初の福祉用具環境<br>2施設合計<br>赤字は福祉用具の変化 | ベッド: 79台 (電動)<br>車いす: 標準型車いす (40台), 跳ね上げ式車いす (10台)<br>リクライニング車いす (14台), ティルト・リクライニング車いす (5台) ⇒6台<br>スライディングシート: 5枚<br>スライディングボード: 8枚<br>スライディンググローブ: 40組<br>リフト: 0台 ⇒2台 |
| 開始当初の職場環境                          | 入浴支援、排泄支援、移乗支援などに腰痛の発生要因がある。  |
| 現在の状況                              | 『特別養護老人ホーム仙寿苑』では、リフトやスライディングボードの使用頻度も向上し、ノーリフティングケアが定着してきている。『特別養護老人ホームはまぼう』においては、スライディングボードの使用は定着しているものの、リフトの稼働率が低い。<br>腰痛調査においても、福祉用具の使用状況と同様、発生率に明らかな差が現れていた。        |
| 腰痛者の割合5月/12月<br>常に痛い・時々痛い人         | 68%⇒68% (令和3年12月末 常に腰痛あり13% 日常業務の中でほとんどが持ち上げや抱え上げ介護を行っている23%)   |

老若男女関係なくいつまでも働ける職場をめざして従来型とユニット型の形態の違う特養の取り組みです。2年目であり、身体的負担の軽減や利用者の怪我も減り、効果がみられてきている施設です。

(地域担当講師 白石より)



|                            |  |
|----------------------------|--|
| 施設名                        | <b>北九州地域</b><br>社会福祉法人 誠光会<br>特別養護老人ホーム 誠光園  |
| 入所定員                       | 60名  |
| 平均要介護度 (12月末)              | 3.8  |
| 介護職員数 (12月末)               | 27名 男性 9名、女性 18名 平均年齢 38.7歳<br>介護職員以外の職員数 16名 (看護職 7名 リハ職1名 事務職 2名 その他 6名)   |
| 取り組み開始時期                   | 平成31年より取り組み開始 (2年目)  |
| 開始当初の福祉用具環境<br>赤字は福祉用具の変化  | ベッド: 電動ベッド 60台<br>車いす: モジュール型 70台, ティルト・リクライニング型 29台<br>スライディングシート : 30枚<br>スライディングボード : 11枚 (フレックスボード含む) ⇒ 22枚<br>スライディンググローブ: 30組<br>スタンディングリフト : 3台 ⇒ 6台 (レンタル1台含む)<br>リフト: 3台 ⇒ 2台 (レンタル利用、対象者退居し1台返却)<br>浴室脱衣所に櫓型リフト その他、情報共有・ケア管理ソフト導入・活用中 |
| 開始当初の職場環境                  | 必要な福祉用具は整っているが、中腰姿勢でのケアなどによる腰痛が減少していない、また介助中に発生したと思われる利用者のケガや内出血が起こっていた。   |
| 現在の状況                      | ・介護中の抱え上げは激減し、仕事での腰痛予防対策は継続している。<br>・仕事での腰痛予防だけでなく、日常生活動作での腰痛動作をアンケート及びモニタリングすること、日常生活での腰痛予防の啓発活動に活かした。  |
| 腰痛者の割合5月/12月<br>常に痛い・時々痛い人 | 41%⇒39% (令和3年12月末 常に腰痛あり4% 日常業務の中でほとんどが持ち上げや抱え上げ介護を行っている0%)  |

今年度は3人のメンバーでの参加ということで計画の進めにくさもあったようですが、確実に施設のノーリフティングケアの取り組みを進めておられることはさすがだと思います。これからも他の施設のお手本として進んでいっていただきたいです。

(地域担当講師 櫻木より)



|                               |           |  |
|-------------------------------|-----------|--|
| 施設名                           | 北九州<br>地域 | 社会福祉法人 薫風会<br>特別養護老人ホーム 風の家  |
| 入所定員                          |           | 入所定員：150名<br>ユニット型（16ユニット）   |
| 平均要介護度（12月末）                  |           | 3.55   |
| 介護職員数（12月末）                   |           | 86名 男性18名、女性 68名 平均年齢 42.3歳<br>介護職員以外の職員数30名（看護職7名 リハ職2名 事務職 2名 その他19名）  |
| 取り組み開始時期                      |           | 令和2年8月～  |
| 開始当初の福祉用具環境の変化。<br>赤字は福祉用具の変化 |           | ベッド：電動ベッド 150台<br>車いす：標準型車いす（61台）⇒（50台）、跳ね上げ式車いす（46台）<br>リクライニング車いす（11台）、ティルト・リクライニング車いす（7台）<br>スライディングシート：4枚⇒18枚<br>スライディングボード：8枚⇒18枚<br>スライディンググローブ：1組⇒86組<br>スタンディングリフト：0台<br>リフト：0台⇒8台 |
| 開始当初の職場環境                     |           | ノーリフティングケアに取り組むのは初めての状況で、福祉用具・リフトなどの導入もこれからであった。   |
| 現在の状況                         |           | ノーリフティング研修に参加し2年かけ理念の理解を行いながら組織を作り上げました。スタッフひとりひとりがノーリフティングケアに対する意識が向上し施設全体での取り組みとして実感できています。今後の課題としては取り組みを継続・技術のさらなる向上を目指し頑張っていきます。   |
| 腰痛者の割合5月／12月<br>常に痛い・時々痛い人    |           | 69%⇒67%（令和3年12月末 常に腰痛あり16% 日常業務の中でほとんどが持ち上げや抱え上げ介護を行っている 5%）   |

昨年の組織体制を変えての再スタートになりましたが、昨年の経験を活かしマネジメントを進めていってられました。2年目はやはり違うなと思いました。これからも一歩一歩進んでいただければと思います。

（地域担当講師 櫻木より）



令和3年度 福岡県ノーリフティングケア普及促進事業

## アドバイザー施設の概要

2年の取組後（令和3年12月末）の  
現状調査の結果  
1期生

|                                  |  |
|----------------------------------|--|
| 施設名                              | <b>筑豊地域</b> 社会福祉法人 桂川福祉会<br>特別養護老人ホーム 明日香園   |
| 入所定員                             | 定員 入所50名 ショートステイ20名  |
| 平均要介護度(12月末)                     | 4.2  |
| 介護職員数(12月末)                      | 25名 男性 11名、女性14名 平均年齢 42歳<br>介護職員以外の職員数 10名 (看護職 4名 リハ職 1名 事務職0名 その他 5名)   |
| 取り組み開始時期                         | 平成30年12月～(3年目)   |
| 開始当初の福祉用具環境<br>の変化<br>赤字は福祉用具の変化 | ベッド: 68台⇒(うち電動ベッド30台⇒40台, 手動ベッド38台⇒28台)<br>車いす: 標準型車いす(12台), 跳ね上げ式車いす(19台),<br>リクライニング車いす(7台), ティルト・リクライニング車いす(9台⇒12台)<br>スライディングシート: 15枚⇒15枚<br>スライディングボード: ロング2枚、ショート6枚<br>スライディンググローブ: 11組<br>リフト: 3台⇒4台 スタンディングリフト: 1台 |
| 開始当初の職場環境                        | 職場内での勉強会を定期的に行い、ノーリフティングに対する情報を適宜共有しており、福祉用具の使用に関しては定着できていたが、使用時の不良姿勢や、その他介助時の環境調整などが不十分なことがあった。   |
| 現在の状況                            | 毎月のノーリフティングケアプロジェクト会議は継続して実施しており、定期的に会議で情報の発信をしている。用具の使用も変化はなく、不良姿勢などの姿勢管理は以前に比べ良くなっているが、まだ不十分な場面がある。<br>技術チェックに関しては、合格ラインを設定し毎月取り組んでいる。   |
| 腰痛者の割合5月/12月<br>常に痛い・時々痛い人       | 50%⇒64% (令和3年12月末 常に腰痛あり 8% 日常業務の中でほとんどが持ち上げや抱え上げ介護を行っている 0%)  |

筑豊地域の中で平成30年からノーリフティングケアに取り組まれている先行モデル施設として、体制が作られている中で更なるノーリフティングケアの定着に向けて取り組みました。取り組みを続け、出てきた課題を放置せず、更に改善に向けてPDCAサイクルを回していく取り組みが感じられました。現場の風土が構築できているからこそ、職員一丸となって取り組めるんだと思います。  
(地域担当講師 安武より)



|                                  |  |
|----------------------------------|--|
| 施設名                              | <b>筑後地域</b> 社会福祉法人 三井福祉会<br>・特別養護老人ホーム宝生園  |
| 入所定員                             | 特別養護老人ホーム 宝生園(多床室ユニット型) 入所定員: 50床<br>個室ユニット型 入所定員: 20床 ショートステイ 入所定員: 13床   |
| 平均要介護度(12月末)                     | 3.7  |
| 介護職員数(12月末)                      | 24名 男性 7名、女性17名 平均年齢 46.54歳<br>介護職員以外の職員数 14名 (看護職 4名 リハ職 1名 事務職 4名 その他 5名)  |
| 取り組み開始時期                         | 平成30年10月～(3年目)   |
| 開始当初の福祉用具環境<br>の変化<br>赤字は福祉用具の変化 | ベッド: 52台(電動ベッド38台 手動ベッド14台)<br>車いす: 標準型(28台⇒23台), 跳ね上げ式車いす(8台),<br>リクライニング車いす(17台⇒15台), ティルト・リクライニング車いす(12台)<br>スライディングシート: 6枚⇒6枚<br>スライディングボード: 3枚⇒8枚 <b>フレックスボード含む</b><br>スライディンググローブ: 21組⇒28組(直接処遇職員分)<br>スタンディングリフト: 2台⇒3台 リフト: 2台 |
| 開始当初の職場環境                        | ①入浴介助へノーリフティングケアの導入②排泄ケアの見直し(おむつ外し、下剤使用頻度減少)<br>③技術定着・向上④ケアの統一を図りながら、施設内でノーリフティングケアの標準化を目指します。   |
| 現在の状況                            | ①ストレッチャー浴の利用者の移乗にフレックスボードを使用するようになり、職員の腰への負担は軽減していると思います。<br>②スタンディングマシンを用いてのトイレ誘導をまずは検討。それでどうしても対応できない利用者のみオムツ対応です。<br>③福祉機器の利用が当たり前となり、重度介助利用者へのケアは統一されています。   |
| 腰痛者の割合5月/12月<br>常に痛い・時々痛い人       | 30%⇒42% (令和3年12月末 常に腰痛あり 4% 日常業務の中でほとんどが持ち上げや抱え上げ介護を行っている 8%)  |

人員の不足により、会議の開催が難しい1年間でしたが、機能訓練指導員を中心に業務を行いながら、マネジメントを実施しました。このことにより、ノーリフティングケアの歩は止まりませんでしたが、この状態での継続が難しいことも判明し、次年度さらに展開していくことになりました。

(地域担当講師 山形より)



|                            |  |                                 |
|----------------------------|--|---------------------------------|
| 施設名                        | <b>福岡地域</b>  | 社会福祉法人 那珂川福祉会<br>特別養護老人ホーム ねむのき |
| 入所定員                       | 入所定員：50名 +ショートステイ10床   |                                 |
| 平均要介護度（12月末）               | 4.2  |                                 |
| 介護職員数（12月末）                | 23名 男性 8名、女性15名 平均年齢 41.3 歳<br>介護職員以外の職員数9名（看護職 4名 リハ職1名 事務職 2名 その他 2名）  |                                 |
| 取り組み開始時期                   | 平成30年9月～（3年目）  |                                 |
| 開始当初の福祉用具環境<br>赤字は福祉用具の変化  | ベッド：61台（電動）<br>車いす：標準型（20台）⇒16台、跳ね上げ式車いす（13台）⇒15台、<br>リクライニング車いす（2台）⇒1台<br>ティルト・リクライニング車いす（13台）<br>スライディングシート：16枚<br>スライディングボード：3枚⇒5枚<br>スライディンググローブ：9組⇒15組<br>床走行式リフト：6台⇒5台、浴室用リフト：1台 スタンディングリフト（3台）⇒2台 |                                 |
| 開始当初の職場環境                  | 県事業以前から、ノーリフティングケアを行い、就業前の体操、安定感のある靴の着用、福利用具（リフト・ボード・シート等）の活用など行っていたが、入浴時、おむつ交換時等の不良姿勢、トイレ誘導時の介護などの課題が残っている状態。   |                                 |
| 現在の状況                      | 環境改善としてトイレの空間を広くし、ベストポジションバーを設置。浴室用リフト購入し、入浴時の抱え上げ介護の軽減を図っている。<br>入所者の機能レベルとしてリフト移乗者よりボード移乗者や立位介助移乗者が増え、トイレ誘導者が増えており、依然としてトイレ誘導時の介護などの課題が残っている状態。  |                                 |
| 腰痛者の割合5月／12月<br>常に痛い・時々痛い人 | 38%⇒43%（令和3年12月末 常に腰痛あり 13% 日常業務の中でほとんどが持ち上げや抱え上げ介護を行っている 4%）  |                                 |

平成30年より「従来型入所」がノーリフティングケアを導入。今年度より法人内へのノーリフティングケアの普及の取り組みを行っている。導入マネジメントも理解できず、今後、福岡地区のノーリフティングケアの中核となるのではないかと思います。

（地域担当講師 白石より）



|                                  |   |                                |
|----------------------------------|---|--------------------------------|
| 施設名                              | <b>北九州地域</b>  | 社会福祉法人 ひさの里<br>・特別養護老人ホームふじの木園 |
| 入所定員                             | 70名（ユニット型：8ユニット）  |                                |
| 平均要介護度（12月末）                     | 3.89  |                                |
| 介護職員数（12月末）                      | 44名 男性 16名、女性 28名 平均年齢 50歳<br>介護職員以外の職員数 14名（看護職 4名 リハ職 2名 事務職7名 その他 1名）  |                                |
| 取り組み開始時期                         | 平成28年7月ごろ（6年目）  |                                |
| 開始当初の福祉用具環境<br>の変化<br>赤字は福祉用具の変化 | ベッド：電動ベッド 89台⇒90台<br>車いす：標準型車いす 35台、モジュール型車いす 20台、<br>リクライニング型 3台⇒1台、ティルト・リクライニング型27台⇒28台<br>スライディングボード：7枚⇒9枚<br>スライディングシート：45枚（ケアスタッフ一人に1枚）<br>スライディンググローブ：45組（ケアスタッフ一人に1枚）<br>スタンディングリフト：7台 床走行リフト：17台⇒18台（うち、浴室リフト10台） |                                |
| 開始当初の職場環境                        | ノーリフティングケア取り組み開始後腰痛は激減し新規の腰痛の発生はない。<br>現在必要な福祉用具は配置しており、職員のノーリフティングケア教育が定期的になされている。<br>また個別アセスメントとプランニング、その定期的な見直しも行なっている。  |                                |
| 現在の状況                            | ノーリフティングケアに関する組織体制（リスク管理、健康管理、教育管理、福祉用具管理、個別ケア管理）は整ってきている。それに伴い、ケア提供者の腰痛の軽減や入居者様の二次障害の減少にも繋がっている。また、取り組みを継続して行うことで、新たな課題も見つかり、新たな福祉用具の導入を図ったり、ICT、IoTを積極的に活用することによりスタッフのケアに対する意識や知識の向上・共有も促進されている。                        |                                |
| 腰痛者の割合5月／12月<br>常に痛い・時々痛い人       | 31%⇒23%（令和3年12月末 常に腰痛あり 0% 日常業務の中でほとんどが持ち上げや抱え上げ介護を行っている 0%）  |                                |

ふじの木園さんはすべての施設に先行してノーリフティングケアに取り組みされており、その取り組みが他の施設のお手本となっていました。これからは皆さんのリーダーとして進んでいってください。

（地域担当講師 櫻木より）

